

施策評価管理シート

2019(令和元)年6月作成

施策体系	政 策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち	担当部局(室)名	部局長名
	基本施策	1	生きる力を育む教育の推進		
	施 策	1	学校教育		
				教育委員会事務局	高嶋 正広

1. 計画策定当初(H28)の状況と課題

Plan

- 0歳から18歳までの育ちの連続性と、教育に関係する社会全体の連携の強化、必要とされる教育水準を保障する仕組みづくりについて、順調に取り組んでいます。
- 学力・体力の向上、子どもの居場所づくりと絆づくり、途切れない支援等、児童生徒の個々のニーズに応じたきめ細やかな取組をさらに進める必要があります。
- 学校ICTをはじめ時代に適応した教育環境の充実、学校施設の長寿化や設備の維持管理、学校の規模・配置の適正化など、計画的に児童生徒の教育環境を整備充実する必要があります。
- 教育センターの機能をさらに充実させ、教職員研修や専門的研究、情報提供の充実はもとより、家庭の教育力、地域の教育力向上のための研修を充実する必要があります。

2. 施策の基本方針

Plan

- 夢に向かって主体的に学び続ける子どもの育成を目指して、教育内容の充実を図るとともに、安全で快適な教育環境を整備します。
- 持続発展可能な社会の実現のため、E S Dの視点を取り入れた、環境教育、国際理解教育、情報教育等の充実を図るとともに、家庭、地域と連携して特色ある学校づくりに取り組みます。
- 学校、家庭、地域、関係機関等、市民総ぐるみで子どもの育ちを支援し、地域コミュニティづくりの核としての学校づくりを推進します。
- 小学校教育から中学校教育への円滑な接続等、義務教育9年間を通じて児童生徒の発達に合った学びを実現するため、小中一貫教育の取組を推進します。
- 特別な支援が必要な子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばす教育を推進するとともに、保護者や関係機関と連携して、途切れない支援に取り組みます。

○施策指標(目標)及び達成状況

Plan

Do

施策指標(目標)の内容(単位)		現状値(H26)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	達成率
小中学校の教育環境に満足している市民の割合(%)	目標	-	-	-	65.0	
	成果	59.3	56.2	62.4	62.8	61.4%
不登校児童生徒の割合(%)	目標	-	-	-	1.10	
	成果	1.27	0.84	0.97	0.96	100.0%
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別的教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合(小学校)(%)	目標	-	-	-	28.0	
	成果	14.3	20.4	25.0	55.1	100.0%
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別的教育計画を保護者の同意のもとに作成している割合(中学校)(%)	目標	-	-	-	6.0	
	成果	0.0	2.2	2.3	8.4	100.0%

3. 課題解決への取組内容及び成果(平成28年度~30年度)

Plan

Do

- ・義務教育9年間を通じて児童生徒の発達に合った学びを実現するため、つつじが丘小学校・南中学校を研究推進校とし、小中一貫教育についての調査研究を進めました。また、名張市における小中一貫教育カリキュラムを策定するとともに、小中一貫教育についての理解や認識を深めるため、小中一貫教育リーフレット「名張市がめざすコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」を作成しました。
- ・平成28年度より3年間にわたり、国の補助事業を活用して、コミュニティ・スクールの導入に向けた市の体制づくりを進めるとともに、研究取組校の成果と課題を検証しながら、市内小中学校への学校運営協議会設置に向けた調査・研究を進めることができました。
- ・ふるさと学習「なばり学」は、上・下巻を刊行し、市内各小・中学校に配付しました。また、授業で活用できる映像コンテンツや教材の充実を図ることができました。合わせてゲストティーチャーの登録を進め、研修会により力量アップを図ることができました。
- ・小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画の一部見直しに基づき、配置の適正化や校区の再編に取り組みしました。また、快適な学習環境を確保するため、小中学校への空調設備の整備を進め、中学校4校と小学校1校で整備を完了しました。
- ・全ての幼稚園・保育所(園)・認定こども園に「ピカ1先生」が巡回し、幼児の小学校入学に対する期待感と安心感を高めることができました。
- ・子育て支援研修会をテーマ別に年間3回、家庭教育連続講座を年間5回実施しました。

4. 成果を踏まえた課題や現状

Check

- ・名張市のめざすコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育に対する理解を促し、小中学校の教職員が校種を越えて義務教育9年間の「学び」と「育ち」に係わるという意識を高める必要があります。
- ・コミュニティ・スクールの未設置校への設置及び設置校の取組の充実を目指して支援を推進する必要があります。
- ・一つの小学校に多数の幼稚園・保育所(園)・認定こども園から就学する状況を踏まえ、小学校への円滑な接続を行う必要があります。
- ・ふるさと学習「なばり学」は、令和元年度より、小学校1~4年生は本格実施、小学校5年生~中学校3年生までは下巻テキストを使用している試行実施となります。
- ・給食センターの整備及び建築後相当年数を経過している多くの施設の老朽化対策を計画的に進める必要があります。
- ・子育て支援研修、家庭教育講座を今後も広めていくために、他部局や他関係団体とも連携を進めていく必要があります。また、家庭教育講座のスタッフの力量アップを図っていく必要があります。

5. 課題解決への取組内容（令和元年度）



・他の中学校区への小中一貫教育の導入準備を進めるとともに、つつじが丘小学校・南中学校においては、小中一貫教育アドバイザーを招聘しながら引き続き研究を進め、その検証結果を各中学校区における小中一貫教育の計画的な導入に生かします。

・市内全小中学校の学校運営協議会設置に向けて、国・県の補助事業を活用し、準備を進めるとともに、学校運営協議会設置校の取組がさらに充実するように、引き続き支援を進めます。

・全ての幼稚園・保育所（園）・認定こども園と小学校が連携を図り、円滑な接続を行うために、幼児教育アドバイザーやピカ1先生を派遣し、小学校入学に対する期待感と安心感を高めるよう取組を進めます。

・ふるさと学習「なばり学」において、ゲストティーチャーと映像コンテンツを授業で活用してもらうための工夫や手だてを講じていきます。各学校でのなばり学の取組や成果物を教育センターに掲示し、実践例を発信していきます。

・学校の規模・配置の適正化において設置する（仮称）新桔梗が丘中学校の円滑な開校に向けて、必要な施設整備を行うとともに準備協議会での関係者間の協議を進め、随時、保護者や地域住民にも情報を伝えます。

・安全で快適な教育環境を整えるため、学校の空調設備の整備、老朽化対策やユニバーサルデザインへの対応等の施設整備を進めます。また、中学校給食導入に向けて取組を進めます。

・子育て支援研修会、家庭教講座に多くの方が参加頂けるよう案内文書は、市内小中学校、保育所（園）、こども園、地域型保育施設、家庭的保育施設、かがやきに配布します。他にも、かがやきを通して主任児童委員に、子ども家庭室を通して各小学校の放課後児童クラブの指導員にも配布します。また、スタッフの力量を高めるために、家庭教育に関する講座や県主催の養成講座への参加を積極的に呼びかけます。

6. 行政評価委員会による総合評価



空調設備整備やトイレの洋式化、老朽化対策などのハード面の教育環境の向上に加え、小中一貫教育の推進や保護者の負担軽減と給食を通じた食育推進を図るため、中学校給食の導入に向けた取組を進めること。